

一般財団法人化学研究評価機構 Japan Chemical Innovation and Inspection Institute

ついに来た器具・容器包装のポジティブリスト制度導入

大妻女子大学 家政学部食物学科 食安全学研究室  
教授 堀江 正一

わが国の食品衛生行政の根幹をなすものは、食品衛生法である。第二次世界大戦以前は、有毒、有害な飲食物の排除が食品衛生の柱であり、当時は警察官が取締りの実務にあっていた。戦後、1947年(昭和22年)に食品衛生法が制定され、警察行政から厚生行政へと変わり、時代に即応して法が改正され今日に至っている。

1947年に制定された食品衛生法で食品添加物は、「人の健康を損なう恐れのない場合として厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて定める場合を除いては、添加物は製造又は使用してはならない」とされ、食品添加物は食品衛生法制定の当初からポジティブリスト制度であった。ポジティブリスト制度とは、原則使用を禁止した上で、使用を認める物質をリスト化する制度である。国が規格基準を定めた物質についてのみ使用可能、即ち安全性を評価して安全性が担保された物質でなければ使用できない制度である。

一方、残留農薬や動物用医薬品については、長い間ネガティブリスト制度で規制されてきた。ネガティブリスト制度とは、使用を原則認めた上で、使用を制限する物質をリスト化する制度である。国が規格基準を定めた物質についてのみ規制される。従って、欧米等で使用が禁止されている物質であっても、個別に規格基準を定めない限り、直ちに規制することができない制度である。しかし、2003年に制定後55年振りに食品衛生法が抜本的に改正された。改正の背景には、BSE、中国産冷凍野菜の残留農薬問題や雪印事件等の食品偽装問題など、食品関係の不祥事が相次いだことが挙げられる。この改正により、残留基準値が設定されていない農薬・動物用医薬品等を含む食品の流通を禁止する「ポジティブリスト制度」が導入され、2006年5月から施行された。この事により、食品添加物に加えて、農薬・動物用医薬品もポジティブリスト制度による規制へと移行した。

しかし今日まで、器具・容器包装の規制は、国が規格基準を定めた物質についてのみ規制されるネガティブリスト制度で安全性の確保がなされている。前述した通りネガティブリスト制度では諸外国で使用が禁止さ

れている物質であっても、個別に規格基準を定めない限り、直ちに規制することができない。また、食品の輸出入量も増加しており、器具・容器包装の輸入量だけを見ても、2005年度から2016年度で、届け出で件数が約20万件から55万件、重量でも約75万トンから83万トンに増加している。従って、器具・容器包装に対しても国際的整合性を踏まえたポジティブリスト制度への移行が必要とされてきた。

この様な状況の中で、食品安全の国際的な整合性や東京オリンピックを控え、2018年6月に食品衛生法は制定後二度目の大改正が行われ、器具・容器包装の規制にポジティブリスト制度が導入された。まずは使用量の多い合成樹脂を対象に制度化されるが、合成樹脂以外の材質についても、リスクの程度や国際的な動向を踏まえ、ポジティブリスト化が推進される予定である。公布の日から起算して2年を越えない範囲で施行とされ、2020年6月1日から施行される予定である。なお、ポジティブリストに収載されていない物質の使用を、施行日以降も一定期間認める猶予期間(5年間)が設けられる予定である。また、乳及び乳製品に用いられている器具・容器包装については、「乳及び乳製品の成分規格等に関する省令」において、別途、規格基準が設定されているが、食品衛生法に基づく「食品、添加物等の規格基準」に一元化される予定である。

現在、施行に向けた取り組みが厚生労働省、食品安全委員会、器具・容器包装関連事業者等において精力的に進められており、新たなポジティブリスト制度による衛生管理のシステム作りが喫緊の課題である。官民が連携し、それを具体化するために、「食品接触材料管理制度推進に向けた準備委員会」が立ち上げられ、その事務局として化学研究評価機構(JCII)が当たっている。JCIIの今後の活動が益々重要になると思われる。

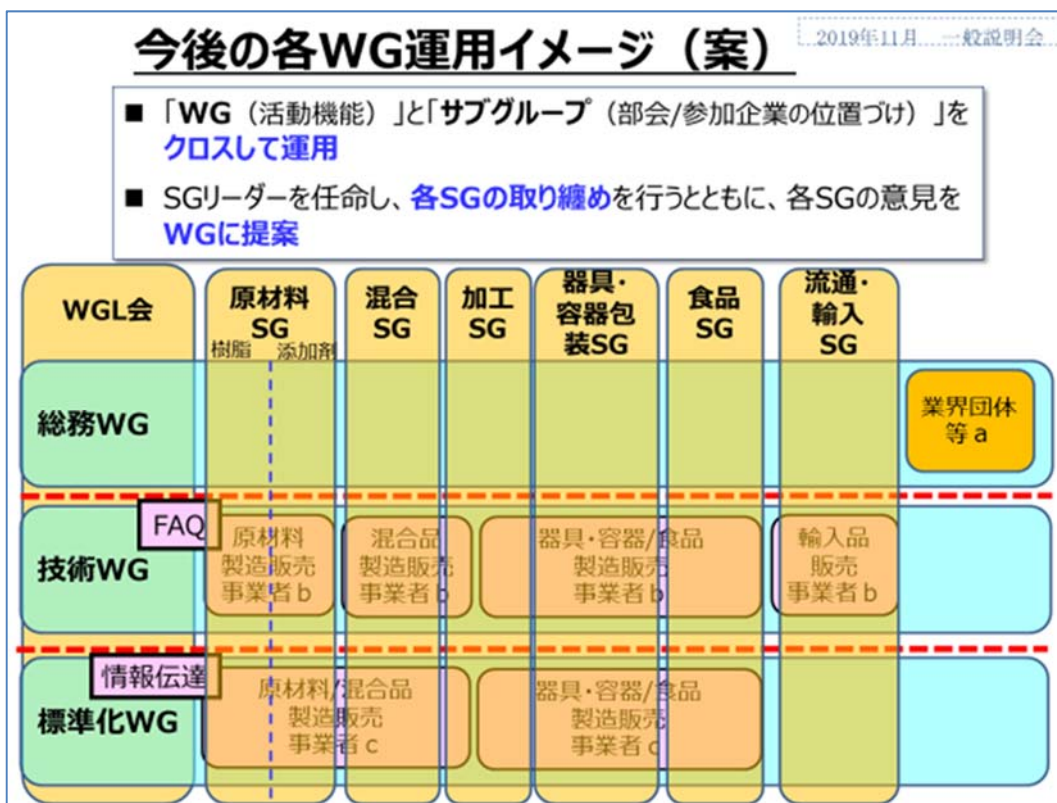


## 〇トピックス

### 食品接触材料管理制度推進に向けた準備委員会

化学研究評価機構

2019年5月に発足した食品接触材料管理制度推進に向けた準備委員会では、これまで3つのワーキング・グループ（総務WG、技術WG、標準化WG）で、運営主体が担うべき事業内容・実施方法、リソースの調達方法、人材育成方法などを検討してきました。特に総務WGでは運営主体の運営事項や関係業界団体対応等を検討し、技術WGでは国のPL制度の施行に向けた技術課題検討等を、標準化WGでは適合性確認の仕組み・情報伝達方法の検討等について取り組んでおります。その成果の1つとして、ポジティブリスト制度の運用に役立つFAQの公開などが挙げられます。そして、これまでの取り組みに加え、業種別の課題解決に取り組むために参加企業の業種ごとのサブグループ（原材料SG、混合SG、加工SG、器具・容器包装SG、食品SG、流通・輸入SG）が設けられました。



また、2020年6月1日に施行される改正食品衛生法による食品用器具・容器包装のポジティブリスト(PL)制度に対応するために官民双方から求められているサプライチェーン全体に横串を通し、国との統一窓口として活動する新しい運営主体が、当機構に「食品接触安全センター（仮称）」として設置する予定です。

#### さらに理解を深めるために（外部リンク）

- [1] 食品用器具・容器包装のポジティブリスト制度について（厚生労働省）  
・概要、ポジティブリスト(告示)の策定について など  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_05148.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_05148.html)
- [2] 食品接触材料管理制度推進に向けた準備委員会（化学研究評価機構）  
<https://www.jcii.or.jp/publics/index/26/>

## 劣化・寿命予測研究会 発足式・勉強会 開催

企画開発部

プラスチックやゴム等の製品に求められている耐久性や劣化・寿命予測について課題や関心のある企業と、その解析技術や試験装置、データを持つ大学や研究機関とをJCIIが橋渡しすべく、「劣化・寿命予測研究会」を発足致しました。また研究会の運営においては、日本で唯一の材料の耐久性をテーマとする学会であるマテリアルライフ学会と連携し進めて参ります。2019年12月10日の発足式では、神奈川大学 大石 不二夫名誉教授に特別講演として「高分子材料の劣化解析・耐久性評価・寿命予測の歴史と今後の方向性」についてご講演いただきました。また、「劣化・寿命予測研究会」では、劣化に関する基礎を学べるように年に3回の勉強会を開催すると共に、課題をお持ちの企業に対しては個別相談会を実施しております。勉強会においては、「促進暴露試験について（2020年2月実施済）」、「屋外暴露試験について（2020年6月予定）」、「暴露試験の規格及びその注意点（2020年10月予定）」をテーマに進めていく予定です。劣化・寿命予測研究会の参加費は無料となっておりますので、皆さまのご入会をお待ちしております。（劣化・寿命予測研究会の入会案内：<https://www.jcii.or.jp/publics/index/26/>）



特別講演 神奈川大学 大石 名誉教授

## 〇講演会・展示会等のご案内

### 2020年度 JCII 標準化調査研究成果発表会 開催

化学研究評価機構

弊機構では、国・公共団体、業界団体等の専門家による「標準化調査研究企画委員会」を設置し、新たな標準となるプラスチックの評価方法の開発を目指して調査研究に取組み、成果を発表しています。現在は、『高分子材料の耐久性評価技術に関する調査研究』及び『食品中の器具・容器包装由来成分に関する調査研究』をテーマとしております。今年度も8月下旬から9月上旬に東京と大阪の2会場で成果発表会を開催致します。詳細は、弊機構ホームページ、メールマガジンなどでお知らせ致します。どうぞご期待下さい。



写真 昨年の JCII 標準化調査研究発表会 風景

高分子試験・評価センターは、「下水道展 '20 大阪」Beyond ーみらいを変える！みらいが変わる！ーに出展致します。当日は、管きょ更生工法の試験およびプラスチック関連の試験・検査業務についてご紹介致します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

名称： 「下水道展 '20 大阪」Beyond ーみらいを変える！みらいが変わる！ー

会期： 2020年8月18日（火）～21日（金）4日間

開催時間： 10：00～17：00（但し、初日10：30から、最終日16：00まで）

場所： インテックス大阪 1～5号館、センタービル 他

主催： 公益社団法人 日本下水道協会

詳細： <https://www.gesuidouten.jp/top/index/>（外部リンク）

## ○業務案内

### 高速衝撃試験機の導入について

プラスチックなどの板状材料の衝撃破壊特性の評価に用いられており、衝撃破壊の力と変位を同時に計測し、コンピュータでデータ処理し、応力-変位線図を求め、最大衝撃力、最大衝撃力時変位、最大衝撃力時エネルギー、全吸収エネルギーなどの衝撃破壊に関する情報が得られます。

装置： 高速衝撃試験機 HITS-PX（島津製作所製）

衝撃試験力： 10 kN

最大ストローク： 300mm

速度設定範囲： 1m/s ～ 20 m/s

試験温度設定範囲： -40℃ ～ +150℃



JCII News（Japan Chemical Innovation and Inspection Institute News）2020年4月 第17号

発行人 西出 徹雄

発行所 一般財団法人 化学研究評価機構

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-11-9 イトーピア橋本ビル7階

TEL：03-5823-5521 FAX：03-3865-3051

URL：<https://www.jcii.or.jp>

本誌の内容に関するご意見、ご質問はJCII企画開発部（[info\\_jcii@jcii.or.jp](mailto:info_jcii@jcii.or.jp)）までお寄せ下さい。

本誌の内容を無断で複写・複製・転載することを禁じます。